

特定非営利活動法人 地球環境保全機構 定款

第1章 総則

(名称)

第1条 この法人は、特定非営利活動法人 地球環境保全機構という。

(事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を東京都豊島区池袋本町一丁目15番15号に置く。

第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 この法人は、世界各国の環境保全のために、我が国の環境技術や蓄積されたノウハウなどを用いて環境保全に関する事業を行い、我が国を含む周辺国、さらには地球全体の環境保全に寄与することを目的とする。

(特定非営利活動の種類)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次に掲げる種類の特定非営利活動を行う。

- (1) 保健、医療又は福祉の増進を図る活動
- (2) 社会教育の推進を図る活動
- (3) まちづくりの推進を図る活動
- (4) 学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動
- (5) 環境の保全を図る活動
- (6) 国際協力の活動
- (7) 子どもの健全育成を図る活動
- (8) 情報化社会の発展を図る活動
- (9) 科学技術の振興を図る活動
- (10) 職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動
- (11) 前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動

(事業)

第5条 この法人は、第3条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 特定非営利活動に係る事業
 - ① 中国における環境の保全を支援する事業
 - ② 黄砂被害の低減を支援する事業
 - ③ 砂漠の緑化、植林を支援する事業
 - ④ 環境保全を考慮した都市計画、まちづくりを支援する事業
 - ⑤ 環境保全を考慮した住宅及びオフィスの建築設計・施工を支援する事業
 - ⑥ 公害病、アスベスト取扱等の広報及び教育を支援する事業
 - ⑦ 太陽光、風力、水力、地熱、バイオ等による自然エネルギー利用の推進を支援する事業
 - ⑧ 温暖化ガスの低減及びダイオキシンの低減を支援する事業
 - ⑨ 水質浄化、大気浄化、土壌浄化等を支援する事業
 - ⑩ 環境を保全できるゴミ処理方法を支援する事業
 - ⑪ 安全無害な農法及び家畜飼育法を支援する事業
 - ⑫ 環境の保全に関わる人々の国際交流を図る事業

⑬ 環境の保全に関わる情報のデータベース構築及びその活用事業

(2) 上記以外の事業

- ① 翻訳及び出版事業
- ② 広告及びデザイン事業
- ③ 講演会、展示会等の企画運営事業
- ④ 特許、実用新案、商標等の取扱に関するコンサルティング事業
- ⑤ コンピュータソフトの開発及び販売事業
- ⑥ 人材派遣に関するコンサルティング事業
- ⑦ 旅行に関するコンサルティング事業

2 前項第2号に掲げる事業（上記以外の事業）は、同行第1号に掲げる事業（特定非営利活動に係わる事業）に支障が^項無い限り行なうものとし、収益を生じた場合は同項第1号に掲げる事業等に充てるものとする。

第3章 会員

(種別)

第6条 この法人の会員は、次の2種とし、正会員をもって特定非営利活動促進法（以下「法」という。）上の社員とする。

(1) 正会員

この法人の目的に賛同して入会した個人及び団体

(2) 賛助会員

この法人の事業を賛助するために入会した個人及び団体

(入会)

第7条 会員の入会については、特に条件を定めない。

2 会員として入会しようとする者は、理事長が別に定める入会申込書により、理事長に申し込むものとし、理事長は、正当な理由がない限り、入会を認めなければならない。

3 理事長は、前項の者の入会を認めないときは、速やかに、理由を付した書面をもって本人にその旨を通知しなければならない。

(入会金及び会費)

第8条 会員は、総会において別に定める入会金及び会費を納入しなければならない。

(会員の資格の喪失)

第9条 会員が次の各号の一に該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

(1) 退会届の提出をしたとき。

(2) 本人が死亡し、又は会員である団体が消滅したとき。

(3) 正当な理由なく会費を滞納し、催告を受けてもそれに応じず、納入しないとき。

(4) 除名されたとき。

(退会)

第10条 会員は、理事長が別に定める退会届を理事長に提出して、任意に退会することができる。

(除名)

第11条 会員が、次の各号の一に該当するに至ったときは、総会の議決により、これを除名することができる。この場合、その会員に対し、議決の前に弁明の機会を与えなければならない。

- (1) 法令又はこの法人の定款等に違反したとき。
- (2) この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。

(抛出金品の不返還)

第12条 既に納入した入会金、会費及びその他の抛出金品は返還しない。

第4章 役員及び職員

(種別及び定数)

第13条 この法人に次の役員を置く。

- (1) 理事 5人以上 10人以内
 - (2) 監事 1人以上 3人以内
- 2 理事のうち、1人を理事長とし、副理事長及び常務理事を若干名置くことができる。

(選任等)

第14条 理事及び監事は、総会において選任する。

- 2 理事長、副理事長及び常務理事は、理事の互選とする。
- 3 役員のうちには、それぞれの役員について、その配偶者若しくは3親等以内の親族が1人を超えて含まれ、又は当該役員並びにその配偶者及び3親等以内の親族が役員の総数の3分の1を超えて含まれることになってはならない。
- 4 監事は、理事又はこの法人の職員を兼ねることができない。

(職務)

第15条 理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。

- 2 副理事長及び常務理事は、理事長を補佐し、理事長に事故あるとき又は欠けたときは、理事長があらかじめ指名した順序によって、その職務を代行する。
- 3 理事は、理事会を構成し、この定款の定め及び理事会の議決に基づき、この法人の業務を執行する。
- 4 監事は、次に掲げる職務を行う。
 - (1) 理事の業務執行の状況を監査すること。
 - (2) この法人の財産の状況を監査すること。
 - (3) 前2号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実があることを発見した場合には、これを総会又は所轄庁に報告すること。
 - (4) 前号の報告をするため必要がある場合には、総会を招集すること。
 - (5) 理事の業務執行の状況又はこの法人の財産の状況について、理事に意見を述べ、若しくは理事会の招集を請求すること。

(任期等)

第16条 役員任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 前項の規定にかかわらず、後任の役員が選任されていない場合には、任期の末日後最初の総会が終結するまでその期間を延長する。
- 3 補欠のため、又は増員によって就任した役員任期は、それぞれの前任者又は現任者の任期の残任期間とする。
- 4 役員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

(欠員補充)

第 17 条 理事又は監事のうち、その定数の 3 分の 1 を超える者が欠けたときは、遅滞なくこれを補充しなければならない。

(解任)

第 18 条 役員が次の各号の一に該当するに至ったときは、総会の議決により、これを解任することができる。この場合、その役員に対し、議決する前に弁明の機会を与えなければならない。

- (1) 心身の故障のため、職務の遂行に堪えないと認められるとき。
- (2) 職務上の義務違反その他役員としてふさわしくない行為があったとき。

(報酬等)

第 19 条 役員は第 5 条の事業を行なうことにより収益があった場合、収益の範囲内で、事業のために要した時間と労力に応じて、対価を受けることができる。

(職員)

第 20 条 この法人に、事務局長その他の職員を置く。
2 事務局長及び職員は、理事長が任免する。

第 5 章 総会

(種別)

第 21 条 この法人の総会は、通常総会及び臨時総会の 2 種とする。

(構成)

第 22 条 総会は、正会員をもって構成する。

(権能)

第 23 条 総会は、以下の事項について議決する。

- (1) 定款の変更
- (2) 解散
- (3) 合併
- (4) 事業計画及び収支予算並びにその変更
- (5) 事業報告及び収支決算
- (6) 役員を選任又は解任、職務及び報酬
- (7) 入会金及び会費の額
- (8) 借入金（その事業年度内の収入をもって償還する短期借入金を除く。第 50 条において同じ。）その他新たな義務の負担及び権利の放棄
- (9) 事務局の組織及び運営
- (10) その他運営に関する重要事項

(開催)

第 24 条 通常総会は、毎事業年度 1 回開催する。

2 臨時総会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。

- (1) 理事会が必要と認め招集の請求をしたとき。
- (2) 正会員総数の 5 分の 1 以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき。
- (3) 第 15 条第 4 項第 4 号の規定により、監事から招集があったとき。

(招集)

- 第 25 条 総会は、前条第 2 項第 3 号の場合を除き、理事長が招集する。
- 2 理事長は、前条第 2 項第 1 号及び第 2 号の規定による請求があったときは、その日から 30 日以内に臨時総会を招集しなければならない。
 - 3 総会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を少なくとも 5 日前までに通知しなければならない。

(議長)

- 第 26 条 総会の議長は、その総会において、出席した正会員の中から選出する。

(定足数)

- 第 27 条 総会は、正会員総数の 2 分の 1 以上の出席がなければ開会することができない。

(議決)

- 第 28 条 総会における議決事項は、第 25 条第 3 項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。ただし、議事が緊急を要するもので、出席した正会員の 2 分の 1 以上の同意があった場合は、この限りではない。
- 2 総会の議事は、この定款に規定するもののほか、出席した正会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(表決権等)

- 第 29 条 各正会員の表決権は、平等なるものとする。
- 2 やむを得ない理由のため総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決し、又は他の正会員を代理人として表決を委任することができる。
 - 3 前項の規定により表決した正会員は、第 27 条、第 28 条第 2 項、第 30 条第 1 項第 2 号及び第 51 条の適用については、総会に出席したものとみなす。
 - 4 総会の議決について、この法人と正会員との関係につき議決する場合においては、その正会員は、その議事の議決に加わることができない。

(議事録)

- 第 30 条 総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。
- (1) 開催の日時及び場所
 - (2) 正会員総数又は出席者数（書面表決者及び表決委任者がある場合にあっては、その数を付記すること。）
 - (3) 審議事項
 - (4) 議事の経過の概要及び議決の結果
 - (5) 議事録署名人の選任に関する事項
- 2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人 2 人以上が記名、押印しなければならない。

第 6 章 理事会

(構成)

- 第 31 条 理事会は、理事をもって構成する。

(権能)

第 32 条 理事会は、この定款で定めるもののほか、次の事項を議決する。

- (1) 総会に付議すべき事項
- (2) 総会の議決した事項の執行に関する事項
- (3) その他総会の議決を要しない会務の執行に関する事項

(開催)

第 33 条 理事会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。

- (1) 理事長が必要と認めたとき。
- (2) 理事総数の3分の1以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき。
- (3) 第15条第4項第5号の規定により、監事から招集の請求があったとき。

(招集)

第 34 条 理事会は、理事長が招集する。

- 2 理事長は、前条第2号及び第3号の規定による請求があったときは、その日から14日以内に理事会を招集しなければならない。
- 3 理事会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を、少なくとも5日前までに通知しなければならない。

(議長)

第 35 条 理事会の議長は、理事長または理事長が指名した者がこれにあたる。

(議決)

第 36 条 理事会における議決事項は、第34条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。ただし、議事が緊急を要するもので、出席した理事の3分の2以上の同意があった場合は、この限りではない。

- 2 理事会の議事は、理事総数の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(表決権等)

第 37 条 各理事の表決権は、平等なるものとする。

- 2 やむを得ない理由のため理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決することができる。
- 3 前項の規定により表決した理事は、前条第2項及び次条第1項第2号の適用については、理事会に出席したものとみなす。
- 4 理事会の議決について、特別の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることができない。

(議事録)

第 38 条 理事会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 開催の日時及び場所
- (2) 理事総数、出席者数及び出席者氏名（書面表決者にあつては、その旨を付記すること。）
- (3) 審議事項
- (4) 議事の経過の概要及び議決の結果
- (5) 議事録署名人の選任に関する事項
 - 2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人2人以上が

記名、押印しなければならない。

第7章 資産及び会計

(資産の構成)

第39条 この法人の資産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。

- (1) 設立の時の財産目録に記載された資産
- (2) 入会金及び会費
- (3) 寄付金品
- (4) 財産から生じる収入
- (5) 事業に伴う収入
- (6) その他の収入

(資産の区分)

第40条 この法人の資産は、これを分けて特定非営利活動に係る事業に関する資産、その他の事業に関する資産の2種とする。

(資産の管理)

第41条 この法人の資産は、理事長が管理し、その方法は、理事会の議決を経て、理事長が別に定める。

(会計の原則)

第42条 この法人の会計は、法第27条各号に掲げる原則に従って行うものとする。

(会計の区分)

第43条 この法人の会計は、これを分けて特定非営利活動に係る事業に関する会計、その他の事業に関する会計の2種とする。

(事業計画及び予算)

第44条 この法人の事業計画及びこれに伴う収支予算は、理事長が作成し、総会の議決を経なければならない。

(暫定予算)

第45条 前条の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、理事長は、理事会の議決を経て、予算成立の日まで前事業年度の予算に準じ収入支出することができる。

- 2 前項の収入支出は、新たに成立した予算の収入支出とみなす。

(予備費の設定及び使用)

第46条 予算超過又は予算外の支出に充てるため、予算の中に予備費を設けることができる。

- 2 予備費を使用するときは、理事会の議決を経なければならない。

(予算の追加及び更正)

第47条 予算議決後にやむを得ない事由が生じたときは、総会の議決を経て、既定予算の追加又は更正をすることができる。

(事業報告及び決算)

第48条 この法人の事業報告書、収支計算書、貸借対照表及び財産目録等の決算に関する

書類は、毎事業年度終了後、速やかに、理事長が作成し、監事の監査を受け、総会の議決を経なければならない。

2 決算上剰余金を生じたときは、次事業年度に繰り越すものとする。

(事業年度)

第 49 条 この法人の事業年度は、毎年 4 月 1 日に始まり翌年 3 月 31 日に終わる。

(臨機の措置)

第 50 条 予算をもって定めるもののほか、借入金の借入れその他新たな義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事会の議決を経なければならない。

第 8 章 定款の変更、解散及び合併

(定款の変更)

第 51 条 この法人が定款を変更しようとするときは、総会に出席した正会員の 4 分の 3 以上の多数による議決を経、かつ、軽微な事項として法第 25 条第 3 項に規定する以下の事項を除いて所轄庁の認証を得なければならない。

- (1) 主たる事務所及び従たる事務所の所在地（所轄庁の変更を伴わないもの）
- (2) 資産に関する事項
- (3) 公告の方法

(解散)

第 52 条 この法人は、次に掲げる事由により解散する。

- (1) 総会の決議
 - (2) 目的とする特定非営利活動に係る事業の成功の不能
 - (3) 正会員の欠亡
 - (4) 合併
 - (5) 破産
 - (6) 所轄庁による設立の認証の取消し
- 2 前項第 1 号の事由によりこの法人が解散するときは、正会員総数の 4 分の 3 以上の承諾を得なければならない。
- 3 第 1 項第 2 号の事由により解散するときは、所轄庁の認定を得なければならない。

(清算人の選任)

第 53 条 この法人が解散したときは、理事が清算人となる。

(残余財産の帰属)

第 54 条 この法人が解散（合併又は破産による解散を除く。）したときに残存する財産は、法第 11 条第 3 項に掲げる者のうち、総会において議決された者に譲渡するものとする。

(合併)

第 55 条 この法人が、合併しようとするときは、総会において正会員総数の 4 分の 3 以上の議決を経、かつ、所轄庁の認証を得なければならない。

第9章 公告の方法

(公告の方法)

第56条 この法人の公告は、この法人の掲示場に掲示するとともに、官報に掲載して行う。

第10章 雑則

(細則)

第57条 この定款の施行について必要な細則は、理事会の議決を経て、理事長がこれを定める。

附 則

1 この定款は、この法人の成立の日から施行する。

2 この法人の設立当初の役員は、次に掲げる者とする。

理 事 長	石 川 洋 美
理 事	林 秀 臣
同	高 良 年 幸
同	杉 本 雅 一
同	清 水 淳
同	酒 井 建 二
同	矢 澤 京 子
監 事	平 田 稔

3 この法人の設立当初の役員の任期は、第16条第1項の規定にかかわらず、成立の日から平成21年5月末日までとする。

4 この法人の設立当初の事業計画及び収支予算は、第44条の規定にかかわらず、設立総会の定めるところによるものとする。

5 この法人の設立当初の事業年度は、第49条の規定にかかわらず、成立の日から平成20年3月末日までとする。

6 この法人の設立当初の入会金及び会費は、第8条の規定にかかわらず、次に掲げる額とする。

(1) 入会金	正会員 (団体)	30,000 円
	正会員 (個人)	5,000 円
	賛助会員は団体、個人とも無料とする。	
(2) 年会費	正会員 (団体)	95,000 円
	正会員 (個人)	10,000 円
	賛助会員 (団体)	一口 50,000 円
	賛助会員 (個人)	一口 5,000 円

令和6年1月18日現在

令和6年度

事業計画書

地球環境保全機構
 特定非営利活動法人 ~~日中環境協力センター~~

1 事業実施の方針

- ・世界の環境問題の現状について情報を収集し、当NPOとして取組むべき事業について数種の企画を作成した。
- ・事業企画の実施に向けて、関係者との連絡、協議、各種資料の収集等を行った。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

(事業費の総費用【 910 】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費(千円)
環境保全を考 慮したまちづく る事業	近年の地球環境の悪化の市 民として出来ること、す べきことをアピールする講 演会の開催の準備	令和6年 4月～令 和7年3 月	本NPO 事務所等	5人	不特定市 民(予定)	40人	300
環境保全を考 慮した住宅及 び建築設計・ 工事	住宅の省エネ化が地球環 境にとつて重要なことと 広報し、参加者を募り、技 術的な支援をするための 準備	令和6年 4月～令 和7年3 月	本NPO 事務所等	5人	不特定市 民(予定)	30人	500
環境の保全に 関する事業	日中の観光客に両国の先 進的なごみ処理場、水処理 場を見学できると観光商 品の企画立案と実施に向け ての準備	令和6年 4月～令 和7年3 月	本NPO 事務所等	5人	不特定の 日中観光 客及び観 光業者(予 定)	30人	200

(2) その他の事業

(事業費の総費用【 】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	事業費(千円)
なし					

令和7年度

事業計画書

地球環境保全機構

特定非営利活動法人 日中環境協力センター

1 事業実施の方針

- ・世界の環境問題の現状について情報を収集し、当NPOとして取り組むべき事業について数種の企画を作成した。
- ・事業企画の実施に向けて、関係者との連絡、協議、各種資料の収集等を行った。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

(事業費の総費用【 1,050 】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費(千円)
環境保全を考 慮した都市計 画、まちづく りを支援する 事業	近年の地球環境の悪化の 危機的な進行に対して、市 民として出来ること、すべ きことをアピールする講 演会の開催の準備	令和6年 4月～令 和7年3 月	本NPO 事務所等	5人	不特定市 民(予定)	40人	500
環境保全を考 慮した住宅及 びオフィス・ 建築設計・支 援する事業	住宅の省エネ化が地球環 境にとつて重要なことを募 り、参加者を募り、技 術的な支援をするための 広報し、個々の省エネ化 の準備	令和6年 4月～令 和7年3 月	本NPO 事務所等	5人	不特定市 民(予定)	30人	500
環境の保全に 関する事業	日中の観光客に両国の先 進的なごみ処理場、水処理 場を見学できると観光商 品の企画立案と実施に向け ての準備	令和6年 4月～令 和7年3 月	本NPO 事務所等	5人	不特定の 日中観光 客及び観 光業者(予 定)	30人	200

(2) その他の事業

(事業費の総費用【 】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	事業費(千円)
なし					

令和 6 年度 活動予算書 (その他事業がある場合)

設立・定款変更用

地球環境保全機構
 特定非営利活動法人 白甲環境協力センター

(単位:円)

科目	特定非営利活動に係る事業		その他事業		合計
	金額	小計・合計	金額	小計・合計	
[A] 経常収益					
1 受取会費					
正会員受取会費		0		0	0
賛助会員受取会費		0		0	0
2 受取寄附金					
受取寄附金		0		0	0
施設等受入評価益		0		0	0
3 受取助成金等					
受取補助金		0		0	0
4 事業収益					
環境保全を考慮した都市計画、まちづくりを支援する事業収益		300,000		0	300,000
環境保全を考慮した住宅及びオフィスの建築設計・施工を支援する事業収益		500,000		0	500,000
環境の保全に係る人々の国際交流を図る事業収益		200,000		0	200,000
5 その他の収益					
受取利息					
経常収益計		1,000,000		0	1,000,000
[B] 経常費用					
1 事業費					
(1) 人件費					
給料手当		400,000		0	400,000
役員報酬		300,000		0	300,000
退職給付費用		0		0	0
福利厚生費		50,000		0	50,000
(2) その他経費					
会議費		30,000		0	30,000
旅費交通費		80,000		0	80,000
施設等評価費用		0		0	0
減価償却費		0		0	0
印刷製本費		50,000		0	50,000
		410,000		0	410,000
事業費計		490,000		0	490,000
2 管理費					
(1) 人件費					
役員報酬		0		0	0
給料手当		0		0	0
退職給付費用		0		0	0
福利厚生費		20,000		0	20,000
(2) その他経費					
消耗品費		10,000		0	10,000
水道光熱費		10,000		0	10,000
通信運搬費		20,000		0	20,000
地代家賃		0		0	0
旅費交通費		0		0	0
減価償却費		30,000		0	30,000
		0		0	0
管理費計		90,000		0	90,000
経常費用計		1,000,000		0	1,000,000
当期経常増減額 [A] - [B] ... ①		0		0	0
[C] 経常外収益					
固定資産売却益		0		0	0
過年度損益修正益		0		0	0
経常外収益計		0		0	0
[D] 経常外費用					
固定資産売却損		0		0	0
災害損失		0		0	0
過年度損益修正損		0		0	0
経常外費用計		0		0	0
当期経常外増減額 [C] - [D] ... ②		0		0	0
経理区分振替額 ... ③		0		0	0
税引前当期正味財産増減額 ①+②+③ ... ④		0		0	0
法人税、住民税及び事業税 ... ⑤		0		0	0
前期繰越正味財産額 ... ⑥		0		0	0
次期繰越正味財産額 ④-⑤+⑥		0		0	0

令和 7 年度 活動予算書 (その他事業がある場合)

設立・定款変更用

地球環境保全機構
特定非営利活動法人 日中環境協力センター

(単位:円)

科目	特定非営利活動に係る事業		その他事業		合計
	金額	小計・合計	金額	小計・合計	
【A】 経常収益					
1 受取会費					
正会員受取会費		0		0	0
賛助会員受取会費		0		0	0
2 受取寄附金					
受取寄附金		0		0	0
施設等受入評価益		0		0	0
3 受取助成金等					
受取補助金		0		0	0
4 事業収益					
環境保全を考慮した都市計画、まちづくりを支援する事業収益		500,000		0	500,000
環境保全を考慮した住宅及びオフィスの建築設計・施工を支援する事業収益		500,000		0	500,000
環境の保全に係る人々の国際交流を図る事業収益		200,000		0	200,000
5 その他の収益					
受取利息					
経常収益計		1,200,000		0	1,200,000
【B】 経常費用					
1 事業費					
(1) 人件費					
給料手当		300,000		0	300,000
役員報酬		500,000		0	500,000
退職給付費用		0		0	0
福利厚生費		50,000		0	50,000
(2) その他経費					
会議費		50,000		0	50,000
旅費交通費		100,000		0	100,000
施設等評価費用		0		0	0
減価償却費		0		0	0
印刷製本費		50,000		0	50,000
事業費計		1,050,000		0	1,050,000
2 管理費					
(1) 人件費					
役員報酬		0		0	0
給料手当		0		0	0
退職給付費用		0		0	0
福利厚生費		20,000		0	20,000
(2) その他経費					
消耗品費		30,000		0	30,000
水道光熱費		10,000		0	10,000
通信運搬費		20,000		0	20,000
地代家賃		0		0	0
旅費交通費		0		0	70,000
減価償却費		70,000		0	0
管理費計		150,000		0	150,000
経常費用計		1,200,000		0	1,200,000
当期経常増減額 【A】 - 【B】・・・①		0		0	0
【C】 経常外収益					
固定資産売却益		0		0	0
過年度損益修正益		0		0	0
経常外収益計					
【D】 経常外費用					
固定資産売却損		0		0	0
災害損失		0		0	0
過年度損益修正損		0		0	0
経常外費用計					
当期経常外増減額 【C】 - 【D】・・・②		0		0	0
経理区分振替額・・・③		0		0	0
税引前当期正味財産増減額 ①+②+③・・・④		0		0	0
法人税、住民税及び事業税・・・⑤		0		0	0
前期繰越正味財産額・・・⑥		0		0	0
次期繰越正味財産額 ④-⑤+⑥		0		0	0